

## はじめに

長崎大学医学部附属原爆被災学術資料センター(通称、原爆資料センター)は資料調査部と病理部の2部門構成で、昭和47年に設立された。設立以後、現在までの活動および研究成果の内容は「原爆資料センター保存資料一覽」(昭和62年刊行)および「長崎原爆研究」(昭和63年刊行)にまとめた。原爆被災後44年が経過し、原爆被災者が高齢化していることから、原爆資料センターの調査研究も重要な時期に来ている。資料調査部では被爆者健診データが充実され、疫学的研究から貴重な結果が導き出されており、病理部では被爆者後障害の病理学的研究がさらに被爆者の老化研究に発展しようとしている。それ故、原爆資料センターの年毎の研究状況をまとめる必要があると思い、研究概要報告を発刊することにした。私共は、今後とも原爆資料センターがユニークな施設として発展するよう努力する決意であり、関係ある方々のこれまでに変わらぬご支援と御鞭撻を賜わるようお願いしたい。

平成元年9月

長崎大学医学部長                      内藤 芳 篤  
原爆被災学術資料センター長      奥 村   寛